

## 【巻頭言】

## 新年のご挨拶



会長 玉田 彰 (53 回生)

学友会の皆様、新年明けましておめでとうございます。令和3年の新春を迎え謹んでご挨拶申し上げますとともに、今年も学友会活動にご協力のほどお願い申し上げます。

会員の皆様にかかれましては新型コロナウイルスの感染拡大により、感染への恐怖や活動自粛のご心労には如何ばかりかお察し申し上げます。また、診療業務では感染対策への留意など、気の抜けない日々をお過ごしのこと

と思います。改めて感染症の脅威を思い知らされ、私たちのライフスタイルを変えざるを得ないことになりました。マスクの着用、こまめな手洗いに加え、三密の回避と本当に気の抜けない毎日ですが、私自身も工事現場の標語にある「注意一秒、怪我一生」の精神で取り組んでおります。

母校の学生さんも大変な一年になりました。新学期当初は遠隔授業のみで6月より対面授業は再開されたものの、学生数を半分に減らしての分散登校となりました。9月からはやっと通常授業に戻りましたが、教職員のみなさまは感染対策には何かと御苦労されています。また、オープンキャンパスも予定通りに開催することができませんでしたが、Web や予約制を導入して昨年より参加者数を確保することができたことは嬉しい限りです。

今回の感染拡大により私たちは莫大な経済的ダメージを受けることになりました。母校の学生の中にはご実家の世帯収入やアルバイト収入が大幅に減少して、就学継続が困難になっている生徒さんも見受けられたそうです。そこで母校は国からの支援に加え、島津学園独自の制度により経済的支援を実施されたと聞き、母校の心温まる制度に称賛いたします。何もかもが変則的になりましたが、学生の皆さん、特に4年生の皆さんはこの危機を乗り越えて全員で国家試験に合格してほしいと思います。

学友会活動も昨年2月に開催された甲信支部総会、兵庫支部総会を最後に各支部総会は軒並み中止を余儀なくされました。今後の支部総会の予定も中止もしくはWeb開催となり、皆様とお顔を合わす機会が先送りされたことも寂しい限りです。理事会や大学行事で頻りに訪れていた母校へも昨年3月を最後に訪れることができず、園部駅から母校への坂道が懐かしくなりません。今年度の第1回理事会は中止となりましたが、第2回、第3回はWeb開催(Zoom)として学友会活動に取り組んでおります。コロナのお話ばかりでは減入ってしまうのでWeb会議でのお恥ずかしいハプニングをご紹介します。パソコンの苦手な私はソフトのダウンロードや会議へのアクセスを息子に託し、前日のリハーサルを経て理事会当日を迎えました。会議は順調に進行しているかに思われましたが開始してすぐに、画面の下に並んでいる参加者のサムネイル動画の中に、自分の顔が映っていないことに気づきました。初めての経験なので「自分の顔は見られないんか」との不信感を抱きつつ、サムネイル左端の全く動かない茶色の画面がずっと気になっていました。会も終盤に差し掛かったところでたまたま通りがかった息子が、焦った様子で近づいてきてパソコンのあるボタンを押してくれました。その瞬間、茶色い画面に私の上半身動画が突然登場したのです。なんとタブレットのインカメラがアウトカメラに設定されていたのです。茶色い画面は我が家のリビングの床だったのです。結局約90分の会議の中で私が登場したのは最後の20分でしたが、わざわざ着替えた新しいポロシャツも披露できたし、最後の挨拶では皆さんとお顔を合わせて何とか無事終えることができました。参加された先生方から何のご指摘もなかったことが不思議でなりません、きっと何か特別な事情があるのだろうとお氣遣いいただいたのでしょね。

会長としての私のスケジュール表はこの先ほぼ真っ白の状態、一昨年の忙しくバタバタした時期が思い出されます。因みに7月から12月の後半戦だけで大阪、長崎・佐賀(長崎)、四国(高知)、北海道(札幌)、東海(名古屋)の支部総会に出席、理事会と大学行事で5回母校を訪れています。また、プライベートでは鹿児島旅行、そして合間を縫って「飲み会」や「ゴルフラウンド」、その他にも「結婚式」、「ボーリング」、「淀競馬場」、「甲子園」と大半の休日に予定が入っている状況でした。ここ数ヶ月の自宅での巣ごもり状態と比べてみれば、よくぞこれだけのスケジュールをこなしたものだと思心するばかりです。体力と行動力だけを武器として生きてきた私ですが、この先コロナが終息し世の中が元通りになっても、以前同様の行動力が戻るのか心配でなりません。

さて、コロナにより経済的ダメージを受けたのは飲食業や旅行業だけに止まらず、我々、医療業界にも大きな影響を与えているようです。全国の半数以上の医療機関が赤字で、さらにコロナ患者を受け入れた施設では8割が赤字に陥っているそうです。地域や診療体制により格差はあるでしょうが、外来患者数の減少(特に慢性疾患患者の受診控え)や病床稼働率低下(手術の延期や一部のフロアを感染対策専用で使用)によりひと月で1億以上の赤字が発生している病院も多数あるようです。このような経営状態の悪化により賞与が減額され、中には不支給となった病院もあるようです。「怖い思いをした挙句、賃金カット」なんて、怒りの矛先はどこへ持っていけばよいのでしょうか？ コロナ終息の目途がたたないなか、政府や自治体は病院に対してコロナ対応病床の確保を求めています。しかし病院は経営悪化を恐れ、協力をためらっているというのが現状です。それでも私達は医療従事者として、コロナ禍の中で感染症対応と通常の診療を両立させる医療体制を構築することに尽力するべきと考えます。すでに世の中では、これまでの「あたりまえ」が少しずつ変化しているように、病院の経営姿勢や診療体制を大幅に見直す時期が迫っているのではないのでしょうか。

最後になりますが、学友会では今年の5月に広島で「総会」を開催する予定です。現時点では通常開催を前提として、広島支部の皆様にご準備いただいております。しかし、今後のコロナの動向によっては中止もしくは規模を縮小しての開催なども視野に含め検討しなければなりません。理事会本部といたしましては2月末から3月中旬までには広島支部と協議のうえ、開催方法を決定する予定です。なお、次回の「学友だより」が4月発行となるため、皆様方には別途お知らせする予定です。

この先、感染症との闘いは長期戦になる可能性もありますが、会員の皆様方も健康には一段とご留意のうえ、穏やかな良き一年をお過ごしください。

以上

---

\* 通巻 238 号 2021 年 1 月 10 日発行(2020—No.4)より